At a Glance 歴史・沿革

## At a Glance

### 2017年3月期業績ハイライト(連結決算)

売上高/対前期比増減率 27<sub>兆</sub>5,971<sub>億円</sub> 2.8%減 **1**兆9,943 億円 **7.2**% 当期純利益率<sup>\*</sup> / 当期純利益率<sup>\*</sup> 1 兆 **8**,**3** 1 1 億円 **6.6**%

※当社株主に帰属する当期純利益

研究開発費/対前期比增減額 1 兆 375 億円

181<sub>億円減</sub>

設備投資額/対前期比增減額 1兆2,118億円

806億円減

事業展開・地域別データ



社長メッセージ

長期戦略

At a Glance 歴史・沿革 持続的成長を支える 取り組み 財務情報

自動車以外の事業 会社情報・株式情報

■At a Glance ■歴史・沿革

# 歴史・沿革

日次



「トヨダAA型乗用車」発売 (1936年)



「トヨペット クラウン」発売 (1955年)



|カローフ]発 (1966年)



「セリカ」発売 (1970年)



| ソアラ ] 発売 (1981年)



「レクサス LS400\*」発売 (1989年) ※日本名 セルシオ



「プリウス」 発売 (1997年)



[MIRAI] 発売 (2014年)



TRI設立(2016年)

#### Toyota Global Architecture MOBILITY **TEAMMATE** CONCEPT 国内/海外生産台数(万台) (2002年よりダイハツおよび日野ブランド含む) TOYOTA SAMA ENVIRONMENTAL ■ 国内生産 ■ 海外生産 **CHALLENGE 2050** ●かんばん方式採用(1963) ● NUMMI設立(1984) ▶ヨタ自動車工業設立(1937) トヨタ基本理念策定トヨタウェイ (2009~2010) トヨタグローバル ●労働争議(1950) 明文化(2001) ●豊田綱領制定(1935) ●TQC導入(1961) ● 丁販合併(1982) ●赤字決算(2009年度) ビジョン策定(2011) 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 ●リオ地球サミット(1992) ●東日本大震災・タイ大洪水(2011) ●第2次世界大戦(1939~1945) ●日本の高度経済成長期 ●石油危機 (1973&1979) ●ベルリンの壁崩壊(1989) ●京都議定書採択(1997) ●国連SDGs採択(2015) (1960~1970年代) ●排ガス規制強化(1970年代) ●日米通商摩擦(1980年代) ●自動車貿易摩擦(1990年代) ●リーマンショック (2008)

# トヨタらしさのルーツと 自動車事業への挑戦

#### トヨタらしさの確立と 社会課題解決のイノベーション

# **社会課題階次のイノベージョノ**

- ●量産体制を整えるとともに、「品質は工程で造り込む」 との品質管理手法や「トヨタ生産方式」を確立
- ●社会問題となった大気汚染に関し、これまでの技術の延 長線上では解決困難な課題にチャレンジし、当時世界で 最も厳しい排ガス規制へイノベーションで対応
- ●二度の石油危機を経て、省資源・省エネルギー化とともに、機能横断チームによる原価改善活動に取り組み

### 相次ぐ試練と グローバリゼーションの拡大

- ●日米通商摩擦を機に、GMとの合弁会社NUMMIにて海 外初の量産プロジェクトを開始
- ●地球温暖化への懸念の高まりに先駆け、世界初のハイブ リッド車「プリウス」を量産化
- ●新興国でのモータリゼーションを見越し、海外生産を拡大。2007年に海外生産が国内を上回る
- ●金融危機による赤字計上、リコール問題、東日本大震災・ タイ大洪水と相次ぐ試練を、お客様第一・チームワークで 京服

### 新たなモビリティ 社会の未来に向けて

クルマを取り巻く大変革をオポチュニティと捉え、「もっといいクルマづくり」と、「電動化」「情報化」「知能化」へ戦略的にシフトすることによる新たなビジネスモデルの構築に取り組みます。これにより、今までの「クルマづくり」だけの進化にとどまらず、社会ニーズに応える「社会プラットフォーム」、人工知能(AI)をはじめとするクルマを超えた「技術プラットフォーム」にまで変革の幅を広げ、未来のモビリティ社会に向けて幅広い領域でお客様の期待を超える価値を提供していきます。



「トヨタ自動車75年史」 ヘリンク

- ●豊田佐吉が「自働化」の機能を含む織機を発明
- ●トヨタ初の生産型乗用車「トヨダAA型乗用車」発売と ともに、豊田喜一郎が将来のモータリゼーションを先読 みし、トヨタ自動車を設立
- ●初期品質不良では、「お客様第一」の精神のもと「現地現物」で「改善」を実施
- ●工場新設時には、流れ作業による一貫生産をめざし、 「ジャスト・イン・タイム」の考えを織り込み
- ●労働争議は、後に労使が互いを「リスペクト」する礎に